

◎今週の御言葉 「子よ、あなたの罪は赦されました」(列王記第二4章18～37節、マルコの福音書2章1～12節)

「エリシャは中にはいり、戸をしめて、ふたりだけになって、主に祈った。…子どもの上に身をかがめると、子どものからだが暖かくなってきた。」(33-34)。

「イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、『子よ。あなたの罪は赦されました。』と言われた。」(5)。

◎私たちの心の中にある罪はどのようにして始末しているのでしょうか？ その解決者に会うことが大切なのです。

◎列王記第二4章には預言者エリシャの働きが記されています。預言者の死後、貧しい女と子のために神様によって必要を満たし借金を支払わせたこと、子どものいない老夫婦に子どもが与えられると共に、その子どもが急病で死んだ時、女の願いに応じてエリシャが祈ることにより、神様が死の床から生き返されたこと、更に、飢饉に見舞われた預言者集団が主によって養われたことなどが記されています。

◎マルコの福音書2章1節以下の平行記事はマタイ9:1～8及び、ルカ5:17～26です。主イエス様はカペナウムに戻り、家に入って教えられると、そこにも多くの人々が集まったのです(1:28, 33, 37, 45)。主イエス様は「みことば」(福音)を語り続けられたのです。そこに4人の人が中風の人を担いで運んできたのですが、入り口が人で溢れていたので屋根をはがして主イエス様の許につり降ろしたのです。主イエス様は「彼らの信仰」を見られたのです。ここに、本人の「何とかして欲しい」との求めとその現実に「何とかしてあげたい」とする4人の熱意が伝わってきます。それ程までして主イエス様にすぎる思いで求め、行動する姿を学びたいものです。

◎「子よ。あなたの罪は赦されました」。主イエス様は中風の人に「子よ」(ルカでは「友よ」と呼びかけておられます。これは弟子たちに対しても示されている愛情のこもった呼びかけなのです(10:24)。本来、「罪を赦す権威」は神ご自身にあるのです(出エジプト34:6～7, 詩篇103:3, 130:4, イザヤ43:25)。また「主の御名を冒瀆する者は必ず殺されなければならない」のです(レビ記24:11～16)。ですから律法学者は主イエス様に対して疑義を抱いたのです。その考えを見抜かれた主イエス様は彼らに「罪を赦す権威」をご自分に与えられていることを明らかにするために、中風の人に「起きなさい。寝床をたたんで家に帰りなさい」と命じられたのです。主イエス様は、言葉だけで罪の赦しを宣言されたのではなく、実際に罪を赦した結果として病を癒やし、彼らに罪をゆるす権威を与えられていることを明らかにされたのです。まさにイザヤ書35章6節にある神の救いの到来が明示されたのです。主イエス様は私たちの罪と病の解決のために十字架にかかり、贖いの御業を成就して下さったのです(ペテロ①2:24)。